

No.4	踏み出し		
氏名	藤井 はるか	経営学部	2回生
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
発展途上国の学びへのアクセスが困難な学生への学習・就職支援サポート.2020年度はサービスの中でも「就職」に絞って展開していきたいと考えている。就職のサポートをする学生を絞り個別にアプローチを行い「学習」に対するニーズを把握することが目的である。 ・NGOクワトロがサポートしているラオスの学生の就職先斡旋サポートを行う。 現在、NGOクワトロがラオスに展開している日系企業とのコネクトを何社かもっているため、7～9月でより多くの企業に対してアプローチを行いラオスの学生の就職先を見つける。 同時に、現地企業が学生に対して求める人材像なども把握し、今後の展開の参考とする。			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
インターン先であるNGOクワトロがラオスで展開する事業に携わりつつ、途上発展国の優秀な人材が希望する進路を選ぶことができるようにサポートを行った。具体的には、ラオスにあるNGOクワトロが衣食住のサポートしている高校生の中で大学への進学や就職を目指す高校3年生が希望する進路につけるように手続きやサポートを行った。そして、私自身の目標であった「途上発展国の優秀な人材が人手不足に悩む日本の中小企業で就職するためのサポートを行う」は、新型コロナウイルスの影響で出入国が不可能であったため実現することができなかった。しかし、今後出入国が可能になった時にサービスを実現するために、NGO団体と共に日本の出入国在留管理局でオンラインインタビューを行い日本での就労に必要なVISAや具体的な手続き方法についてリサーチを行うことができた。			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
今後、新型コロナウイルスが収束した場合、ラオスの高校生や大学生の日本の中小企業での就職支援に向けてサポートを行っていきたいと考えている。また、今後は自分自身が活動に携わるだけでなく、自分の活動を周りに周知してもらったり国際協力や社会問題について対話する機会を設定することで「途上発展国の子どもが抱える社会問題への認知度を向上させる」という活動にも注力していきたいと考えている。具体的には、現地の日本語を話すことができる学生と日本の学生をオンラインで繋ぎ、ディスカッションや交流の場を設けるイベントや、ゲストスピーカーを呼び日本の学生が国際協力に関心を持ってもらえるような講演会を開くことを考えている。			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
今回の取り組みを通して、「ビジネス面」での社会問題解決の可能性を大きく感じることができた。そのため、今後も経営学部でビジネス面の知識をインプットし学びを深めていきたいと思う。また、取り組みに携わり日本企業についてリサーチを進める内に「日本企業が抱える問題」について興味関心を抱くようになった。特に、日本の社会人は働きがいや仕事への楽しさを感じることができず長時間労働している状況に違和感を感じた。また、他国と比較した際の日本企業の労働生産性の低さや、今後の生産人口の減少、終身雇用や年功序列といった雇用態勢・組織体制に疑問を持つようになった。今回の取り組みでは、途上発展国の優秀な人材を日本の企業で働くことを目標としていたが、そもそも日本の企業で働きたいと思ってもらえるような魅力的な環境をもっているのだろうかと思い、まずは日本国内の企業体制を整えるべきではないかと思うようになった。そのため、残り2年の中で日本企業や日本経済に関する知見を広め、大学院での研究も視野に入れつつ、具体的なアプローチ方法を考えていきたいと思う。			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。			
まず、自身が所属する国際協力団体の一部のメンバーに対して、国際協力の様々なアプローチ方法を提示することができた。同団体では、中高生に向けた教育支援活動を主に行っているが、その先の就職までサポートができるかも知れないと認知を広めたことで団体の今後の活動の幅を広めることができたと思う。また、サポートを行っていたラオスの高校生に対して、「日本で就職することができるかもしれない」と将来の進路に新たな選択肢を提示することができた。これまでも、日本に行き働きたいという学生はいたものの、サポート体制がなく不可能であった。しかし、今回の取り組みを通して日本で働くために必要なVISAや資格を具体的に示すことができたため、今後のキャリアに影響を与えることができた。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。	
3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。	
個人が成長したと思うポイント→5月に新型コロナウイルスの影響でやロックダウンが行われ、当初予定していたプランが実現不可能だとわかった時。自分の能力や努力によって変えられること、どうにもならないことがあるのだと痛感した。自分が考えていたサービスが実現できないという挫折を味わったことで、一度立ち止まり「自分は何を解決したいのか」「自分にできることは何だろうか」と考えるきっかけができ、成長するポイントとなった。この停滞を通して、自分の活動から振り返るだけではなく他に人の活動や著作を通してマインドをインプットしようと思い、国際協力に関する本や様々な活動を行う人が集まるイベントに積極的に参加するようになった。そして、自分が今まで考えていた「国際協力」の固定概念や「社会問題解決へのアプローチ」が代わり、社会問題解決のためのアプローチをより客観的に考えることができるようになった。特に、「自分が活動することで社会問題を解決したい」と思っていたが「社会問題があることを多くの人に広めることで認知度を向上させ、社会問題に関わる人口を増やす」という考えに変わったことが一番の学びである。	
3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？	
今回の取り組みを通して、社会問題解決のためのビジネスモデルを作ることや仕組みについてより深く理解したいと思うようになり、新たなビジネスモデル創出について学ぶことができる経営学部の依田ゼミを志望した。社会問題を解決するための糸口は一つではなく、様々な事象や人が相互に作用することが必要だと学んだため、「ビジネス」という観点を経営学部で学び、自分にできる新たなアプローチ方法を考えていきたいと思うようになった。	
4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか 5段階で評価してください。（該当ナンバーに○） また、併せて評価の理由も書いてください。 評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】	
① 目標の達成度	3
<理由> 当初予定していた目標を達成することができなかった。しかし、新型コロナウイルスの影響下で自分にできる活動を考え、行動に移すことができたという点で1ではなく2に設定した。具体的には、目標の1つであった「NGOクワトロがサポートする高校生と連絡をとり、学習に対するニーズを把握する」という点は達成することができた。	
② 計画の達成度	2
<理由> 計画では、日本国内で途上発展国の優秀な人材を雇ってくれる会社を見つけ、VISAや入国の手続きまで終えたいと考えていた。しかし、対面での活動が制限され思うように活動ができなかった。	
③ 取り組みを通じた自己成長	5
<理由> 今回の取り組みを通して、予定していたプランが実行できないという挫折を味わったことで自己成長に繋がるおおきなきっかけとなった。特に、「社会問題を解決するためのアプローチ法」について、様々な意見やアイデアをインプットすることで、より俯瞰した視点から社会問題を見つめ直し、自分にできることを考えることができた。	
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	自己分析力
② ①で記述した力について具体的に説明してください	
自分が取り組む活動を「なぜ自分がこの問題を解決したいのか」「自分の達成したいことは何なのか」と自身に問い続けることで、自分が本当に解決した社会問題に気づくことができたから。	
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	
新型コロナウイルスの影響で当初予定していたプランが実行できず、一度自分自身の活動や今後したいことを立ち止まり考えなおす時間ができたため。また、日本企業のリサーチを進める中で、自分が本当に解決したい社会問題は「日本企業の労働生産性と働きがい」を向上させることだと気づいたため。	